

非鉄金属

藤井製作所

低鉛の快削りん青銅棒開発

含有値大幅減 海外規制強化に対応

りん青銅や洋白の棒・線を製造販売する藤井製作所（本社・東京都江戸川区、社長・藤井隆氏）は低鉛の快削りん青銅棒を開発した。電子機器や自動車の部品では鉛含有値の規制強化が世界的に予測されている。同社では環境変化に対応し鉛含有値を従来品の半分以下に抑えても部品への切削加工性を維持する合金を開発した。構成元素が従来品と同じで切削屑の分別が不要なほか、強度が高いことも特長。既にサンプル品の出荷が可能な状況で夏前には量産化したい考えだ。

従来品の快削りん青銅棒の鉛含有値は4%弱だが、同社では1.5~2%に抑えた「FX418」と0.7~1%の「FX408」の2種類を開発した。新合金はりん青銅に含まれる錫を従来品よりも多く配合し特性を高めたもの。鉛は切削性を高めるために添加されるが、錫含有量の工夫で鉛添加量を抑えても効率的に削れる。実験炉で数十通りの配合を試し、特性や生産性で最適な合金を実現し

た。自動車・電子機器のネクタ向けの用途を想定している。ばねなどの機械的特性は変わらず強度が向上するため、部品設計を大きく変えずに鉛規制に対応できる。価格は若干割高になる予定。欧州では電子機器部品を対象とするRoHS指令や自動車関連のELV指令で鉛規制が段階的に進む可能性が高い。製品・部品を輸出する関連で国内でも対応が必要な状況。同社では低鉛でも切削加工が容易なりん青銅棒をそろえ、他素材への代替を抑える。またりん青銅棒で低鉛と快削性を両立する製品は世界的にも珍しく、藤井社長は「海外での拡販にも期待ができる」と話している。今後は切削性の低下を抑えつつ、さらに鉛含有率の少ない合金の開発を進める。

工が容易なりん青銅棒をそろえ、他素材への代替を抑える。またりん青銅棒で低鉛と快削性を両立する製品は世界的にも珍しく、藤井社長は「海外での拡販にも期待ができる」と話している。今後は切削性の低下を抑えつつ、さらに鉛含有率の少ない合金の開発を進める。

料などでの需要に期待している。新製品の強度快削りん青銅合金「FX403」は、従来の高強度りん青銅棒C5212の成分などを改良した製品。ニッケルや鉛を添加している。強度の基準となるビッカークエークは従来品の高強度りん青銅棒が250度だが、新製品は270~300まで高めている。高い強度と価格競争を生かして、伸銅品として最高級品のベリリウム銅棒からの代替を図っている。現在は直径1~7mmの棒製品を出荷しているが、今後は10mm以上精度を高めたセンタレ素材でも供給可能となっている。

度りん青銅棒が250度だが、新製品は270~300まで高めている。高い強度と価格競争を生かして、伸銅品として最高級品のベリリウム銅棒からの代替を図っている。現在は直径1~7mmの棒製品を出荷しているが、今後は10mm以上精度を高めたセンタレ素材でも供給可能となっている。

度りん青銅棒が250度だが、新製品は270~300まで高めている。高い強度と価格競争を生かして、伸銅品として最高級品のベリリウム銅棒からの代替を図っている。現在は直径1~7mmの棒製品を出荷しているが、今後は10mm以上精度を高めたセンタレ素材でも供給可能となっている。

度りん青銅棒が250度だが、新製品は270~300まで高めている。高い強度と価格競争を生かして、伸銅品として最高級品のベリリウム銅棒からの代替を図っている。現在は直径1~7mmの棒製品を出荷しているが、今後は10mm以上精度を高めたセンタレ素材でも供給可能となっている。

関東地区 アルミスクラップの値決め交渉 3月後半 横ばい見通し

関東地区のアルミスクラップ市況は、発生難とメーカーの調達意欲の鈍さからこう着。3月後半積みみのアルミ二次合金メーカーと原料問屋との値決め交渉は、前半から横ばい決着との見方が強まっている。サッシ類が主力の軽圧、鉄鋼用の脱酸需要もさえないことに加え、指標となる海外アルミ新塊価格が現地8日に急落したことが要因だ。指標となるLMEアルミ価格は現地8日、中国の貿易統計の弱さを嫌気して反落。円高によって国内アルミ新塊価格も押し下げられ

LME非鉄 全面安

三井金属 電気亜鉛1万2000円下げ

ロンドン金属取引所（LME）非鉄市況は現地8日、銅、亜鉛など軒並み下落。非鉄最大消費国の中国需要に減速懸念が広がり、全面安の展開となった。三井金属は電気亜鉛建値を1万2千円引き下げ24万7千円にすると発表。同日時点の3月平均価格は24万9千円となった。銅は前日比19・5ドル安の現物4980ドル（前場、セトルメント価格）、先物4862

ロンドン金属取引所（LME）非鉄市況は現地8日、銅、亜鉛など軒並み下落。非鉄最大消費国の中国需要に減速懸念が広がり、全面安の展開となった。三井金属は電気亜鉛建値を1万2千円引き下げ24万7千円にすると発表。同日時点の3月平均価格は24万9千円となった。銅は前日比19・5ドル安の現物4980ドル（前場、セトルメント価格）、先物4862